

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立つつじが丘小学校
-----	--------------

1 学校教育目標

<p>学ぶことを楽しみ、人とつながって生きるつつじっ子の育成 (つよい心の子・つよい体の子・じぶんで考える子)</p>

2 今年度の学校重点目標

<p>① 主体的な学び手を育てる授業研究と効果的な学習活動を推進する。 ② 個に応じた指導による基礎的な知識及び技能の向上を図る。 ③ 組織力を生かした生活指導の充実を図る。 ④ 「人とつながる」「言葉でつながる」「心がつながる」心の教育を推進する。 ⑤ PDCAサイクルを推進し、教育活動の充実・強化を図る。 ⑥ 業務内容を見直し、校務の効率化をめざす。 ⑦ 保護者・地域との連携を密にし、安心・安全・充実した学習環境の整備を図る。</p>

3 総合的な自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の学習・生活状況を丁寧に見取り、個々に合わせた指導を行った。 ・支援や補助に係る加配、ボランティアの力を得、教育活動全体で児童を支援できた。 ・月1回の児童理解で共通理解を図るとともに、家庭と連携しながら学習・生活指導を進めた。 ・感染症対策を適切に進め、児童の安全・安心な学校環境を整えることができた。 ・会議の生鮮を進めることにより勤務時間の適正化に向けた取り組みを実施した。

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導では、基礎基本の定着はもちろん自ら意欲的に学習に取り組む姿勢の育成を目指してほしい ・あいさつは、日常生活において重要なコミュニケーションツールである。誰とでもどんな場所でもしっかりと元気に挨拶ができるつつじっ子になってもらいたい。 ・学校の取り組みは評価できる。今後とも地域と連携を深め、子どもたちを支えていきたい。
--

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標	教育目標達成に向けた具体的な指導計画や内容を作成し、取り組むことが出来たか	指導計画に基づき、取り組みを進めることができた。	コロナ禍での制限緩和を踏まえ、教育活動において自主性、協働性をより高める教育活動を進める。	家庭の教育力の低下を懸念する。学校と地域が連携を図りながら啓発運動を進めていただきたい。
教育課程	計画的な行事計画や学習カリキュラム(地域教材)が立てられたか	コロナ禍の影響を受けたが授業時数を確保し、地域学習の機会を増やすことができた。	コロナ禍で行事等の精選を行ったが、その趣旨も踏まえつつ次年度も実施時期、内容等を見直し適切に実施していく。	行事の精選は、子どもたちの成長を見据えた効果的な内容となるよう設定願う。
	体験活動で興味、関心を十分に引き出し、主体的・意欲的な学習につながることができたか	活動が制限された中ではあったが、自然学校、環境体験事業等実施することができた。	コロナ禍の制限緩和を受け、活動が充実した内容になるように計画をしっかりと立て、児童の意欲向上につなげる。	コロナ禍にあっても、自然学校、環境体験事業が計画的に実施できたことは評価できる。活動がより主体的なものとなるよう願う。
学習指導	基礎学力と基本的な学習規律や習慣の定着を図れたか	がんばりタイム指導員を学習支援に充て支援した。学習習慣の定着には課題が残る。	がんばりタイム指導員の継続活用を図る。朝学習の定着を進める。学習習慣作りを家庭と連携して進める。	基礎基本の定着には家庭の教育力向上も必要である。学校と保護者との連携に加えて地域も協力して子どもたちを支えていきたいと考える。
	マラソン・なわとびなど体力づくりの継続的な取り組みができたか	体育の時間を中心に、記録会も開催した。	児童の体力向上に向け、時期や内容、方法を改善しながら取り組む。	体力向上に向けて全児童が頑張れる環境づくりを願う。
生活指導	メディア視聴時間の改善は図れたか	生活アンケートを実施し、実態を把握した。情報モラルに係る学習の充実を図っていく必要がある。	次年度も校内での生活指導の徹底を行う。また、全校的に「情報教育(正しいメディアとの向き合い方)」の推進を図る。保護者向けの啓発活動を進める。	家庭での活用が多くなることを見据え、児童の情報モラルの育成、保護者の見守り方について啓発していくことが必要である。
	全校で「トトロ(生活)の約束」の徹底が図れたか	年間を通して重点的に取り組むことができた。児童会を中心としたあいさつ運動を年間通じて実施した。	「トトロ(生活)の約束」を拡充し、あいさつや廊下の歩き方、スリッパ奈良部だけでなく、時間意識、自分や友達を大切にす取り組みなども重点的に進める。	朝のあいさつ運動など、児童会の主体的な取り組みも成果となってきている。今後も継続した取り組みを願う。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的に対応できたか	いじめ対応チームを中心に組織的な取り組みを進めた。	未然防止、早期発見、早期対応の充実が図れる組織体制を強化していく。職員間で情報共有をさらに徹底していく。	子どもたちの小さな変化を見逃さず、組織的な取り組みを継続していただきたい。
	誰もが安心できる学校づくりを進めることができたか	SC、SSWをはじめ関係機関と連携しチームとして対応を進め、子ども、家庭との信頼関係につないでいる。	児童同士のコミュニケーション力を伸ばし、問題解決能力の育成を目指す。こまめで丁寧な家庭連絡を行い、保護者と連携した取り組みを進めていく。	子どもたちの心の安定が何より大切である。多様な家庭環境、また、保護者からの多種多様なニーズや社会変動に柔軟に対応できる体制づくりを継続して進めてほしい。
保護者・地域住民等との連携	授業参観、オープンスクール、学校行事などの教育活動が保護者や地域住民に開かれたものになっていたか	コロナ禍ではあったが、感染症対策を取り、保護者を中心に教育活動を公開する機会を増やすことができた。	感染対策が緩和されることを受け、子どもたちの学校での様子を保護者等へ見て頂く機会を充実させるとともに、通信、HPなどでの発信に努める。	感染防止に十分配慮しながら保護者、地域が連携できる会の開催確保を願う。また、学校、学級などからの情報発信について、さらなる取り組みを期待する。
	地域のボランティアや、公共機関、老人クラブなどの外部組織との連携は計画的に行えたか	ミシンボランティア、地域探検などで、少しずつ活動を増やしていくことができた。	組織的な取り組みが出来ているので、今後の感染対策を考慮し活動の充実に向けて連携を強化していく。	地域ボランティアを積極的に活用してほしい。つつじっ子広場や子ども食堂でのつながりも大切にしていきたい。
学力向上指導改善プラン	少人数指導など指導体制を工夫し、個に応じた支援ができたか	学習システム、兵庫型教科担任制の活用により、個に応じた支援を進められた。	個別の指導計画等を活用し、授業中の細やかな見取りと支援、放課後学習や朝学習で復習を中心に取り組んでいく。	少人数指導や専科教師の指導で、きめ細かな支援及び基礎基本、学習習慣の定着も合わせて推進し、個別最適な学びの実現を願う。
	効果的な算数活動を目指し、問題解決を図る授業に取り組めたか	1人1研究授業を進め、外部講師の指導も受けながら、取り組みが進められた。	子どもから「〇〇したい」気持ちを引き出し、主体的に問題解決を図り、達成感を味わえる授業となるよう研究を進める。	研究を進める中で、授業に主体的に取り組む姿勢の育成が図られていることは評価できる。今後も継続、発展的な取り組みを願う。
	各教科・領域で、説明や発表、書いてまとめるなどの表現活動を授業で取り入れることができたか	、ICT機器なども活用し、プレゼンテーション能力の育成を図るなど、工夫した取り組みが行えた。	一人一台のタブレットを調べ学習、表現活動等にも効果的活用できるよう、積極的な利活用を進め、その効果等について検証を進める。	児童が本来持ち合わせている豊かな表現力が発揮されることを願う。表現活動をする場を積極的に設定し、ICT機器等も効果的に活用する中で、表現力向上に努めてもらいたい。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
1学期	評価項目の周知
2学期	運動会・音楽会および保護者アンケートの実施とまとめ 職員の評価アンケート実施と集計、学校教育改革推進委員会でのまとめ
3学期	自己評価結果をもとに、改善策について審議し来年度の方針をたてる

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
1学期	6月 重点教育目標、評価の視点について説明と確認をする
2学期	12月 これまでの学校運営の様子について意見交流し、課題解決に向けた方向性を確認する。学校評価項目や評価の方法等について共通理解を図る
3学期	3月 学校評価、アンケート結果をもとにした評価委員会を開催、まとめを行う

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
3月1日	学校だより 3月号	学校評価(保護者アンケート)結果及び考察について報告	①
3月13日	学校地域運営協議会	教職員、保護者評価(学校だより)、児童生活アンケートを報告。各委員からの意見を集約、まとめを行う。	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います

※ 行は、適宜加除願います。